「松竹大谷図書館ニューズレター」に掲載されている全ての内容の無断使用・転載・配信を禁止します

令和5年1月10日発行

演劇・映画の専門図書館

# 松竹大谷図書館ニューズレター

No. 298（2023年1月）

## 新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

旧年中は皆様より沢山のご支援ご協力を賜り有難く厚く御礼申し上げます

昨年はクラウドファンディング「【第11弾】蘇る六代目の舞台、小津安二郎『鏡獅子』を次世代へ。」を実行し、290名の方より449万4千円のご支援を頂きプロジェクトが成立いたしました。募集した資金は、歌舞伎記録映画『鏡獅子』の4Kデジタル修復の資金として使わせていただきました。記念すべき本年2023年の小津安二郎生誕120年に、鮮やかに蘇った『鏡獅子』を、多くの皆様にご覧いただけるよう励んでまいります。

皆様のご協力とご支援を支えとして、ますます充実した演劇と映画の専門図書館を目指し、これからも資料の保存・活用にスタッフ一同努めてまいります。本年も当館の活動にご理解・ご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

松竹大谷図書館 スタッフ一同

本年の干支は「癸卯」。上の兎は、当館所蔵の組上燈籠絵「頼朝富士之牧狩仁田四郎功名之圖組上ケ五枚續」より抜粋したものです。この組上は、曽我十郎祐成・五郎時致兄弟が父親の仇の工藤祐経を討つまでを描いた『曽我物語』のうち「巻第八」の富士の裾野の牧狩りの場面の組上燈籠絵で、源頼朝が催した牧狩りの最中に飛び出してきた猪を剛勇で知られた仁田四郎忠常が見事仕留める場面が描かれています。

左の写真はその複製の組上完成形の一部分で、猪の足元に逃げ惑う兎の姿が見えます。この組上完成形を、現在閲覧室にて展示しております。

また、この組上をデザインに使用した文庫本カバーは、当館閲覧室や歌舞伎座1階お土産処木挽町、松竹歌舞伎屋本舗で絶賛販売中です。

目次:


| | |
|---|---|
| 新年のご挨拶 | 1 |
| クラウドファンディング「【第11弾】蘇る六代目の舞台、小津安二郎『鏡獅子』を次世代へ。」初号試写会報告 | 2-3 |
| 令和四年度 第51回 大谷竹次郎賞が決定しました | 4 |
| 第95回所蔵資料ミニ展示「黙阿弥尽くし！—河竹黙阿弥没後130年—」 | 4 |
| 所蔵資料紹介 —[1]「浅草歌舞伎」プログラム— | 4 |
| 「中央区まちかど展示館」季刊誌Vol.13に「お年玉スタンプラリー」と当館の記事が掲載されています | 5 |
| 新着資料案内 | 5 |
| 資料をご寄贈くださった方々 | 5 |
| 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い | 6 |
| 松竹大谷図書館 ご来館予約のお願い | 6 |
| 利用案内 | 6 |

「松竹大谷図書館ニューズレター」に掲載されている全ての内容の無断使用・転載・配信を禁止します

## ■クラウドファンディング「【第11弾】蘇る六代目の舞台、小津安二郎『鏡獅子』を次世代へ。」初号試写会報告

前号でもお伝えいたしましたが、12月に、【第11弾】クラウドファンディングで進めていた、「鏡獅子」の4Kデジタル修復が完了し、株式会社IMAGICAエンタテインメントメディアサービス第1試写室を会場に、3回に亘って初号試写会を行い、関係者と共に5万円の支援者の方をご招待致しました。そこで、今回は、試写会の様子と今回制作した字幕版についてご報告致します。

試写会受付

初号試写は、作業が完了した映像を実際にスクリーンに投影して、関係者立ち会いのもとで確認を行い、問題がないことを承認する、デジタル修復の最終段階の重要な作業です。これまで修復や字幕作成などの作業は、それぞれフィルムの巻単位、つまり『鏡獅子』の場合は3巻のフィルムに分かれているので、3つのデータ別に管理されて行われてきました。しかし初号試写では、巻ごとに別だったフィルムのデータが繋げられて１本の映画となって上映されます。試写会での上映中、関係者は、映画全体としての仕上がりを確認すると同時に、違和感やバグが無いか集中して確認し、例えば継ぎ目に余計な映像が入ってしまった場合でも、発見して修正を行います。

また、今回「鏡獅子」4Kデジタル修復版では無字幕版のほか、日本語字幕版、英語字幕版を制作致しましたので、初号試写はそれぞれ1回ずつ、計3回行われました。

全ての試写会での上映前には、修復プロデューサーの五十嵐真氏に『鏡獅子』が作られた背景や、当時の小津作品の評価、そしてデジタル修復について、お話し頂く約20分のトークショーコーナーを設けました。特に修復作業については、松竹大谷図書館のスタッフが見学に行く度に、プロの立場からのお話を色々と伺って感心した事が何度もあったので、ぜひ皆様にも知って頂きたいと思い、五十嵐氏に詳しくご説明頂くことにしました。

**１）2022年12月 2 日（金）15:30開始　無字幕版**

最初の試写会は、支援者の方4名、松竹映像センターや東京現像所などデジタル化関係者12名、松竹株式会社関係者16名、松竹大谷図書館関係者8名、報道関係2名、計42名の方にご参加

トークショー中の当館司書武藤(左)と五十嵐氏(右)

頂き、明け方にワールドカップで日本がドイツに勝利した歴史的な日に開催されました。

トークショーでは、まずは『鏡獅子』がいかに大切な作品であるかについて五十嵐氏に松竹の映像本部に長年いらした立場からお話し頂きました。

松竹の社史にも『鏡獅子』についてはきちんと記載されていて、そこには「（六代目）菊五郎が外務省の国際文化振興会からの依頼で、歌舞伎の真髄を海外に紹介するため、「鏡獅子」のトーキー撮影を行ったのは、この年（1935年）六月二十五日で、歌舞伎座打ち出しの後、松竹蒲田撮影所の小津安二郎監督の下に、徹夜で撮影を完了した。この映画は、海外向けが目的だったので、映画完成の後でも国内での一般公開は行われなかった。」などと書いてあります。

この映画が撮影された時代背景については、1927年にアメリカでワーナーブラザーズが、初めて本格的なトーキー映画『ジャズシンガー』を作り、また日本では1931年（昭和6年）に松竹が『マダムと女房』という本格的トーキーの第一弾を作った事があげられます。小津安二郎については1932年から3年連続でキネマ旬報のベストワンに輝いていて（「生まれてはみたけれど」「出来ごころ」「浮草物語」）、世の中で実力が認められた時期であり、その翌年の1935年にこの『鏡獅子』にチャレンジしています。1935年は蒲田撮影所最後の年で、翌1936年大船撮影所が始まりましたが、小津は閉所後の蒲田撮影所で「一人息子」を撮影しました。これが小津の初のトーキー作品と言われていますが、実はこの『鏡獅子』が本当の意味でトーキー第一弾という事になります。 3年連続ベストワンを受賞した作品はすべてサイレントの作品です。世の中は、1929年に世界恐慌、1931年に満州事変、世の中が物騒な状況であったのでしょうけど、エンターテインメントはその中で、民衆に求められていたのではないかと想像できます。松竹も、松竹興行株式会社と松竹キネマ株式会社が一緒になって、1937年に松竹株式会社が設立されています。そういう重要な時代の中で、作られた作品です。

続いて修復について、プロデューサーの視点からお話を伺いました。

現在はソフトウエアが開発されていて、ある程度自動で修復出来るようになったとは言え、最終的には1コマずつ人間の眼と手で修復していく作業

「松竹大谷図書館ニューズレター」に掲載されている全ての内容の無断使用・転載・配信を禁止します

が必要です。松竹映像センターがこれまで修復を手掛けた中でも一番古い映像である『鏡獅子』は、24分で約34,560コマの絵を修復しなくてはならず、非常に大変な作業でした。

デジタル修復は色々な事がやれるようになってきて、作業する者が自分達の主観で良かれと思って手を加える事も出来てしまい、ともすれば改ざんも出来てしまいます。ただ、映画というのは、監督をはじめ沢山の制作者の方たちの血と汗と涙の結晶であり、1カット1カット演出意図があってお客様にこれを伝えようという積み重ねであり、それを勝手に修復する作業者が主観で変える事は出来ないので、きちんと監修者の方を立てたり、当時の制作環境を調べたりして、お客様に当時の人がご覧いただいたできるだけそのままをご覧いただきたいと思っています。今回『鏡獅子』の映像は、よくフィルムの中にこれだけの情報量が残っていたなと、思うぐらい画も音も楽しんで頂ける状態になりましたので、ぜひ24分間の映像をお楽しみ下さい。

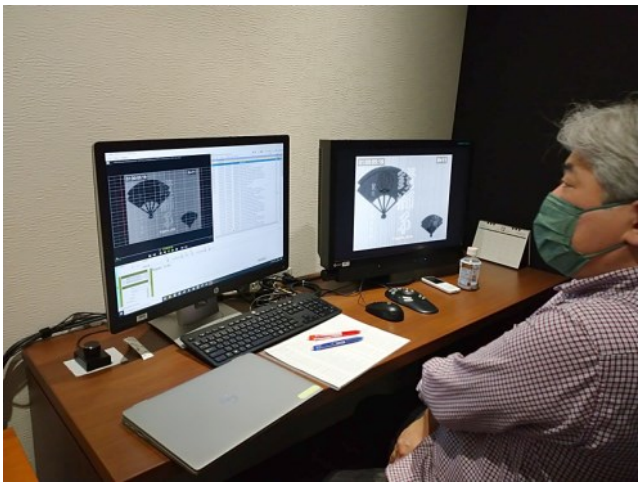
トークショーはご参加頂いた方からも大変好評で、「映画から見た意義や修復の話を聞けたことは、知識が深まりました。当時の最先端技術で、記録されたことを実感しました。おかげで、六代目の芸を見ることができることは、ありがたいことです。」という嬉しいご感想も頂きました。現場の人しか知り得ない貴重なお話に会場の皆様も時折頷きながら、熱心にお聞きになっておられました。

**２）2022年12月15日（木）19:00開始　日本語字幕版**

2回目の試写会は日本語字幕版で、支援者の方9名、松竹映像センターなどデジタル化関係者5名、松竹株式会社関係者11名、映画・演劇関連機関より5名、松竹大谷図書館関係者7名、報道・劇評関係5名、計42名の方にご参加頂きました。

今回「鏡獅子」4Kデジタル修復版では日本語字幕版、英語字幕版、を新たに制作致しました。日本語字幕は、小津安二郎DVD-BOX 第二集特典ディスク「まほろば」に収録された映像にも付いていましたが、その際は、ナレーションの台本をそのまま採用したと思われる完成台本の表記に忠実な字幕となっていました。昭和25年の再編集時に付け加えられたナレーションの文章は、浄瑠璃・歌舞伎など近世劇文学の研究家である守随憲治によるものです。昭和25年という時代には当たり前であった漢字表記や旧仮名遣いも、今となっては常用ではない表記も多かったため、松竹映像センターの笹木絵美子氏の主導で打ち合わせとチェックの作業を重ね、この機に、文章自体には手を加えずに、表記については、一字一句細かく見直しを行い、現代の字幕ルールに則ってひらがなにしたり常用漢字を置き換えたりするなどの変更を行い、現代の観客に通じる日本語字幕に仕上げました。（例：「申す迄もなく」⇒「申すまでもなく」、「我が儘に」⇒「我がままに」、「然も」⇒「しかも」、「そなはった」⇒「備わった」、「つやつやしてゐた」⇒「つやつやしていた」、「かへって」⇒「かえって」、「頗る」⇒「すこぶる」、「明治廿六年」⇒「明治二十六年」　など）また、詞章（歌詞）についても、完成台本の漢字表記の間違いを正したり、漢字をひらがなにしたりしました。（例：「伊勢天小舟」⇒「伊勢海士小舟」）

試写会の前の週には、株式会社IMAGICAエンタテインメントメディアサービスさんにお邪魔して、字幕の確認作業を行いました。そこでは、字幕の表示位置やフォントなどの最終確認を



株式会社IMAGICAエンタテインメントメディアサービス成田氏

行い、字幕担当の成田幸司氏にアドバイスを頂き、詞章部分をイタリックにして頂いたり、詞章の各歌い出しの部分に合わせて字幕が表示されているかなどを確認しました。今回、音声がとてもきれいに修復されて聞き取りやすくなったので、詞章に合わせて字幕がタイミングよく表示されるのが良く分かりました。

**３）2022年12月20日（火）10:30開始　英語字幕版**

3回目に開催された試写会は英語字幕版で、支援者の方7名、松竹映像センター・松竹メディア事業部などデジタル化関係者24名、演劇ライツなど松竹株式会社関係者14名、映画・演劇関連機関より2名、報道・劇評関係8名、計55名の方にご参加頂きました。

今回の4Kデジタル修復版では、特に海外での上映を視野に入れ、英語字幕版の制作に力を入れました。英語字幕の監修は、イヤホンガイドの英語版翻訳やナレーション、シネマ歌舞伎の英語字幕などを担当されているポール・グリフィス氏にお願いしました。字幕の表示に字数の制限がある中、ナレーション部分は、昭和25年頃の、ちょっと古い日本語の言い回しを分かりやすく英語にして頂き、また、詞章（歌詞）の部分は、叙景的表現や、古い日本語の表現なども、とても丁寧に意味が伝わるように英語に翻訳して頂きました。試写会後にも、字幕がとても分かりやすく良かったというお褒めの言葉を多く頂き、海外に向けての活用に大きく一歩を踏み出せた気が致します。

以上、3回行われた試写会についてのご報告でしたが、修復された映像や音声に関しては、これから皆さんにご覧いただく機会もある事を想定し、その時に新鮮な気持ちで見て頂けるように、敢えて細かいレポートは掲載しませんが、松竹映像センターの皆さんのお気持ちのこもった丁寧な修復により、映像と音声が非常に鮮明になったことは間違いありません。試写会の参加者の方にも大変好評で、「キズやノイズが取り除かれた事によって六代目の舞踊に集中して映像が観られるようになった」「手獅子の音や所作台を踏む音が立体的に聞こえてくるので、映像に臨場感が出た」など、好意的な感想を多く頂いております。

完成したデータは１月末に納品されますので、それ以降『鏡獅子』の活用にぜひご期待ください。

「松竹大谷図書館ニューズレター」に掲載されている全ての内容の無断使用・転載・配信を禁止します

## ■令和四年度 第51回 大谷竹次郎賞が決定しました

令和四年度 第51回大谷竹次郎賞は、下記の通り決定いたしました。

**●大谷竹次郎賞 竹柴潤一 脚本**

**『赤穂義士外伝の内 荒川十太夫』**

**令和4年10月歌舞伎座上演**

『赤穂義士外伝の内 荒川十太夫』は、歌舞伎でもなじみ深い忠臣蔵ものの講談を新作歌舞伎として上演した作品で、俳優の個性を生かしながら登場人物をしっかりと描き、人間の情に訴えかけたまとまった作品として仕上げた点が評価されました。令和元年度 第48回以来3年ぶりの受賞者で、竹柴潤一氏は、第48回奨励賞の『本朝白雪姫譚話』に続き、初の大谷竹次郎賞受賞となりました。

大谷竹次郎賞は、毎年1月より12月までの公演において、歌舞伎俳優によって上演された新作歌舞伎および新作舞踊劇の脚本を対象に選考し、娯楽性に富んだ優れた脚本に対して松竹株式会社、公益財団法人松竹大谷図書館が贈る賞です。昭和47（1972）年より毎年、松竹株式会社創業者の一人で、新作歌舞伎の上演に尽力していた大谷竹次郎の誕生日にちなんで12月中旬に発表しており、今年で51回目を迎えました。佳作や奨励賞(新人対象)を贈る場合もあります。

## ■第95回所蔵資料ミニ展示「黙阿弥尽くし！ ―河竹黙阿弥没後130年― 」

**展示期間:2023/1/11-3/1 於閲覧室**

当館では1月11日より、閲覧室ミニ展示「黙阿弥尽くし！―河竹黙阿弥没後130年―」が始まります。江戸末期から明治期における近代への激動のなか、江戸歌舞伎を集大成した狂言作者・河竹黙阿弥（文化13[1816]年－明治26[1893]年 ）。本年は、黙阿弥没後130年にあたります。白浪物から活歴物、松羽目物まで、その生涯で約360もの作品を遺し「江戸演劇の大問屋」と評された黙阿弥の作品は、現代に至るまで繰り返し上演され、人気を博しています。今回の展示では、当館所蔵資料の中から、歌舞伎上演台本やプログラム、舞台写真はもちろんのこと、演劇・映画化された黙阿弥作品、関連資料など、「黙阿弥尽くし」で黙阿弥の魅力をご紹介いたします。

また、今月1月は、歌舞伎座では第一部で白浪物の人気作『弁天娘女男白浪』、二部ではイギリスの戯曲『money』を黙阿弥が翻案した話題作『人間万事金世中』、三部は江戸情緒溢れる名作『花街模様薊色縫　十六夜清心』を上演、そして浅草公会堂では人気舞踊の『連獅子』と、まさに黙阿弥尽くしの一ヶ月となっております。2月には代表作『三人吉三巴白浪』、『船弁慶』の上演も。歌舞伎座公演をよりお楽しみいただけるよう、公演関連資料も揃えてお待ちしております。

展示はご予約なしでご覧いただけますが、台本やプログラム、図書などをお読みになりたい方は閲覧席のご予約をおとりいたしますので、前日までに電話でのご予約をお願いいたします。是非ご来館くださいませ。

河竹黙阿弥作品の過去の歌舞伎上演台本
※展示資料ではありません

**閲覧室ミニ展示「黙阿弥尽くし！―河竹黙阿弥没後130年―」**
**展示期間:2023年1/11(水)～3/1(水)/時間: 平日10時～17時/休館日:土日祝日、毎月最終木曜日/展示場所:松竹大谷図書館 閲覧室**
**※現在、展示は予約なしでご覧いただけます。**
**松竹大谷図書館 TEL 03-5550-1694(平日:10時より17時)**
https://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/

## ■所蔵資料紹介 ―[1]「浅草歌舞伎」プログラム―

今号より、松竹大谷図書館の演劇・映画の所蔵資料をご紹介するコーナーを不定期で連載します。当館は閉架式のため、一般的な公共図書館のように書架を自由にご覧いただくことはできません。そこで、どのような所蔵資料があるのか知っていただけるよう、写真と共にご紹介します。

第1回は「浅草歌舞伎」のプログラムです。この1月、3年振りに復活した「浅草歌舞伎」。その第1回目が行われたのは昭和55[1980]年、今から43年前に遡ります。この年の1月、浅草公会堂にて「寿新春花形歌舞伎」が行われ、記念すべき「浅草歌舞伎」のはじまりとなりました。浅草の地で歌舞伎興行が行われるのは、昭和33[1958]年8月常盤座上演の「花形歌舞伎」以来、実に22年振りで、二代目中村吉右衛門、五代目中村勘九郎(十八代目中村勘三郎)、五代目坂東玉三郎など、当時人気の若手歌舞伎俳優を中心とした座組でした。この公演以来、浅草の歌舞伎公演は定着し、平成2[1990]年以降は毎年1月の歌舞伎興行が恒例となりました。

第1回(昭和55[1980]年)から第10回(平成3[1991]年)までの浅草歌舞伎プログラム

「松竹大谷図書館ニューズレター」に掲載されている全ての内容の無断使用・転載・配信を禁止します

## ■「中央区まちかど展示館」季刊誌Vol.13に「お年玉スタンプラリー」と当館の記事が掲載されています

当館も参加している「中央区まちかど展示館」が【お年玉スタンプラリー】を1月31日まで開催しています。現在配布中の「中央区まちかど展示館」季刊誌Vol.13の巻末のアンケート葉書で、2館のスタンプを集めて応募すると、抽選で30名様に素敵なお年玉プレゼントが当たります。季刊誌は展示館などで配布しているほか、まちかど展示館HPからもダウンロード可能です。また、季刊誌Vol.13には、特集「川や橋にまつわるエピソードは？まちかど展示館訪問」に当館の記事も掲載されており、当館が入るビル前を昭和30年代まで流れていた築地川に関するエピソードなどを当館主任司書の武藤がインタビュー形式で答えています。是非こちらもお読みくださいませ。

「中央区まちかど展示館」季刊誌Vol.13はこちら https://chuoku-machikadotenjikan.jp/pdf/kikanshi13.pdf#page=4

## 新着資料案内 （ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします）

新しく受入れた資料をご案内いたします

◆松竹系12月演劇公演資料　○ … 受入済

| 劇場 | 演目 | 台本 | スチール | プログラム | ポスター |
|---|---|---|---|---|---|
| 歌舞伎座 | 『其俤対編笠 鞘當』 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 『京鹿子娘二人道成寺』 | ○ | ○ | | |
| | 『毛抜』 | ○ | ○ | | |
| | 『十三代目市川團十郎白猿八代目市川新之助襲名披露口上』 | | ○ | | |
| | 『團十郎娘』 | ○ | ○ | | |
| | 『助六由縁江戸桜』 | ○ | ○ | | |
| 新橋演舞場 | 『舟木一夫 ロングコンサートin新橋演舞場』 | | | ○ | ○ |
| 南座 | 『義経千本桜 すし屋』 | ○ | | ○ | |
| | 『龍虎』 | ○ | | | |
| | 『恋飛脚大和往来 玩辞楼十二曲の内 封印切』 | ○ | | | |
| | 『秀山十種の内 松浦の太鼓』 | ○ | | | |
| | 『年増』 | ○ | | | |
| | 『女殺油地獄』 | ○ | | | |
| 松竹座 | 『大阪環状線 天満駅編 うちの家族は日本一やねん！』 | | | ○ | ○ |

◆他社演劇公演資料（2022年10月-12月）（順不同）復帰50年企画・共同制作『カタブイ、1972』下北沢小劇場B1プログラム、台本/Road ONE『朗読劇千住に吹く風 鷗外青春診療録控』天空劇場プログラム/『ショウ・マスト・ゴー・オン』世田谷パブリックシアタープログラム/KERA-MAP『しびれ雲』本多劇場プログラム/『ベルベル・ランデヴー』シアタークリエプログラム/ミュージカル『ファンタスティックス』シアタークリエプログラム/ミュージカル『ジャージー・ボーイズ』日生劇場プログラム/劇団民藝『モデレート・ソプラノ』紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYAプログラム、台本/名取事務所『そんなに驚くな』下北沢小劇場B1プログラム、台本/『第329回歌舞伎公演』国立劇場大劇場プログラム/『第202回邦楽公演』国立劇場小劇場プログラム/『第203回邦楽公演』国立劇場小劇場プログラム/『第91回雅楽公演』国立劇場小劇場プログラム/『第171回舞踊公演』国立劇場小劇場プログラム/『第26回特別企画公演』国立文楽劇場プログラム/『第40回舞踊公演』国立文楽劇場プログラム/『第168回文楽公演』国立文楽劇場プログラム、床本

◆映画資料 『かがみの孤城』プレス、ポスター、プログラム/『JSB3 LIVE FILM RISING SOUND』プログラム

◆映画プログラム（順不同）『ウォン・カーウァイ4K』『夜、鳥たちが啼く』『ひつじのショーン スペシャル クリスマスがやってきた!』『銀河英雄伝説 Die Neue These 激突 第三章』『ハッピーニューイヤー』『宮松と山下』『東京藝術大学 佐藤雅彦研究室 カンヌ短編プロジェクト』『四月物語』『ドリーム・ホース』『近江商人、走る!』『ファミリア』『さかなのこ』『マイ・ブロークン・マリコ』『ルイス・ウェイン 生涯愛した妻とネコ』『Never Goin' Back ネバー・ゴーイン・バック』『アバター：ウェイ・オブ・ウォーター』『ブラックナイトパレード』『SPACE ADVENTURE コブラ』『ラーゲリより愛を込めて』『フラッグ・デイ 父を想う日』『Dr.コトー診療所』

◆演劇雑誌（順不同）『Confetti』2023年January/『omoshii PRESS オモシィ・プレス』Vol.23/『あぜくら』2022年12月号/『ほうおう』2023年2月号/『ジョイン』No.104/『テアトロ』2023年1月号/『喝采』2023年4月号,4月別冊/『劇評』令和4(2022)年12月/『大向う』令和4年12月号/『日本演劇興行協会会報』63号/『日本芸術文化振興会ニュース』2023年1月号/『日本照明家協会誌』2022年12月号/『悲劇喜劇』2023年1月号

◆映画雑誌（順不同）『FLIX』2023年2月号/『NFAJプログラム』No.42/『SCREEN』2023年2月号,付録スター&監督大名鑑2023,2023カレンダー/『TVガイド』2022年12/9号,12/16号,12/23号,2022年12/24-2023年1/6号/『おとなのデジタルTVナビ』2023年2月号/『エキプ・ド・シネマ』EXTRA NUMBER 1,SPECIAL NUMBER 12,SPECIAL NUMBER 14,No.16,No.19-No.21,No.23-No.26,No.28-No.30,No.32,No.33,No.36-No.38,No.44-No.48,No.50,No.52/『キネマ旬報』2023年1月上・下旬合併号/『シナリオ教室』2023年1月号/『ドラマ』2023年1月号/『ピクトアップ』2023年2月号/『ムービー・スター』2023年2月号/『ムービータイムス』7079号-7081号,7083-7090号/『映画テレビ技術』2022年12月号/『映画ビジネス』1257-1275号/『黒澤明研究会誌』46号/『日経エンタテインメント!』2023年1月号/『文化通信ジャーナル』2022年12月号

## 資料をご寄贈くださった方々 （敬称略・順不同／2022年10月-11月）

※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、国立劇場、博多座、無声映画鑑賞会、東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、キネマ旬報社、株式会社日本舞踊社、文学座、帝国劇場、シアタークリエ、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館、人形劇団プーク、日本映画テレビプロデューサー協会、博松大剛、一般社団法人日本民間放送連盟、国立映画アーカイブ、若林さだ吉、公益社団法人日本照明家協会、株式会社カモミール社テアトロ編集部、東宝株式会社映像事業部、大矢芳弘、銀座百店会、（株）近代映画社、おとなのデジタルTVナビ編集部、邦楽の友社、博物館明治村、Milcho Manchevski、平野共余子、国立歴史民俗博物館、下野公久、シナリオ・センター、関西学院大学 文化総部 古典芸能研究部OB会、有限会社合同通信社、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、劇団俳優座、公益財団法人 劇場演出空間技術協会、こまつ座、安孫子正、佐野正典、新国立劇場情報センター、銀座 博品館劇場、公益財団法人阪急文化財団、明治座、浅川千波、協同組合 日本映画撮影監督協会、公益財団法人日本近代文学館、劇団民藝、丹野達弥、墨染会、日本劇作家協会、児玉数夫、山田敬伸、企業メセナ協議会

どうもありがとうございました

「松竹大谷図書館ニューズレター」に掲載されている全ての内容の無断使用・転載・配信を禁止します

# 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申上げます。

■現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）令和4[2022]年12月にご支援いただきました

法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座
歌舞伎座サービス株式会社
歌舞伎座舞台株式会社
有限会社合同通信社
松竹株式会社
松竹衣裳株式会社
株式会社松竹映像センター
松竹音楽出版株式会社
松竹芸能株式会社
株式会社松竹サービスネットワーク
松竹ブロードキャスティング株式会社
株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

個人（敬称略）

永松　宏之

どうもありがとうございます

## 松竹大谷図書館 ご来館予約のお願い

開館日時やご利用方法につきましては、状況の変化にともない変更の可能性がございます。

随時お電話でのご確認や、当館のHP、Facebookの更新をご確認下さい。ご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

当館は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご来館は「前日までの予約制」とさせて頂いております。

《現在のご利用について》（※2022年10月3日改定）

●開館時間　10:00～17:00
●ご来館前日（※休館日を除く）までに、お電話でのご予約をお願い致します。
　当日のご利用は、閲覧席に空きがある場合のみ承ります。
　松竹大谷図書館　03（5550）1694（平日10時～17時）
●展示はご予約なしでご覧頂けます。状況によっては、入室をお待ち頂く場合がございます。
●ご利用の際は引き続きマスクの着用と手指の消毒をお願い致します。

《ご予約について》

★10時から17時まで、毎正時より１時間単位でのご予約制になります。
★お名前、人数、ご希望日時（○月○日○時より○時まで）、閲覧希望資料名、ご連絡先をお知らせ下さい。
★ご同伴者はお一人までで、出来るだけお一人でのご来館をお願い致します。
★資料は予約優先になりますので、ご利用頂けない場合もございます。

松竹大谷図書館資料検索：https://opac315.libraryexpert.net/lib-shochiku-otani/
詳しいご利用方法はこちら：https://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/news/220606.html

●利用案内●[開館時間]平日10:00～17:00／[休館日]土曜日、日曜日、祝日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期・夏期整理期間※その他、臨時休館のある場合は1ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します／[閲覧]館内閲覧のみ
[入館料]無料／[コピーサービス] A4 1枚 白黒50円,カラー150円・B4 1枚 白黒100円,カラー300円　量が多い場合は翌開館日渡し、または郵送(送料は申込者負担) 但し、コピー不可の資料もあります
●資料検索●https://opac315.libraryexpert.net/lib-shochiku-otani/
●交通案内●東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分／東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

**編集・発行：公益財団法人　松竹大谷図書館**
〒104-0045　東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア3階
TEL:03-5550-1694
公式HP● https://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/
公式Facebook● https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/